

平成23年7月新潟・福島豪雨 只見川・阿賀野川における対応について

1. ダム上流の影響範囲に関する対策
2. ダム下流の影響範囲に関する対策
3. 情報伝達の改善

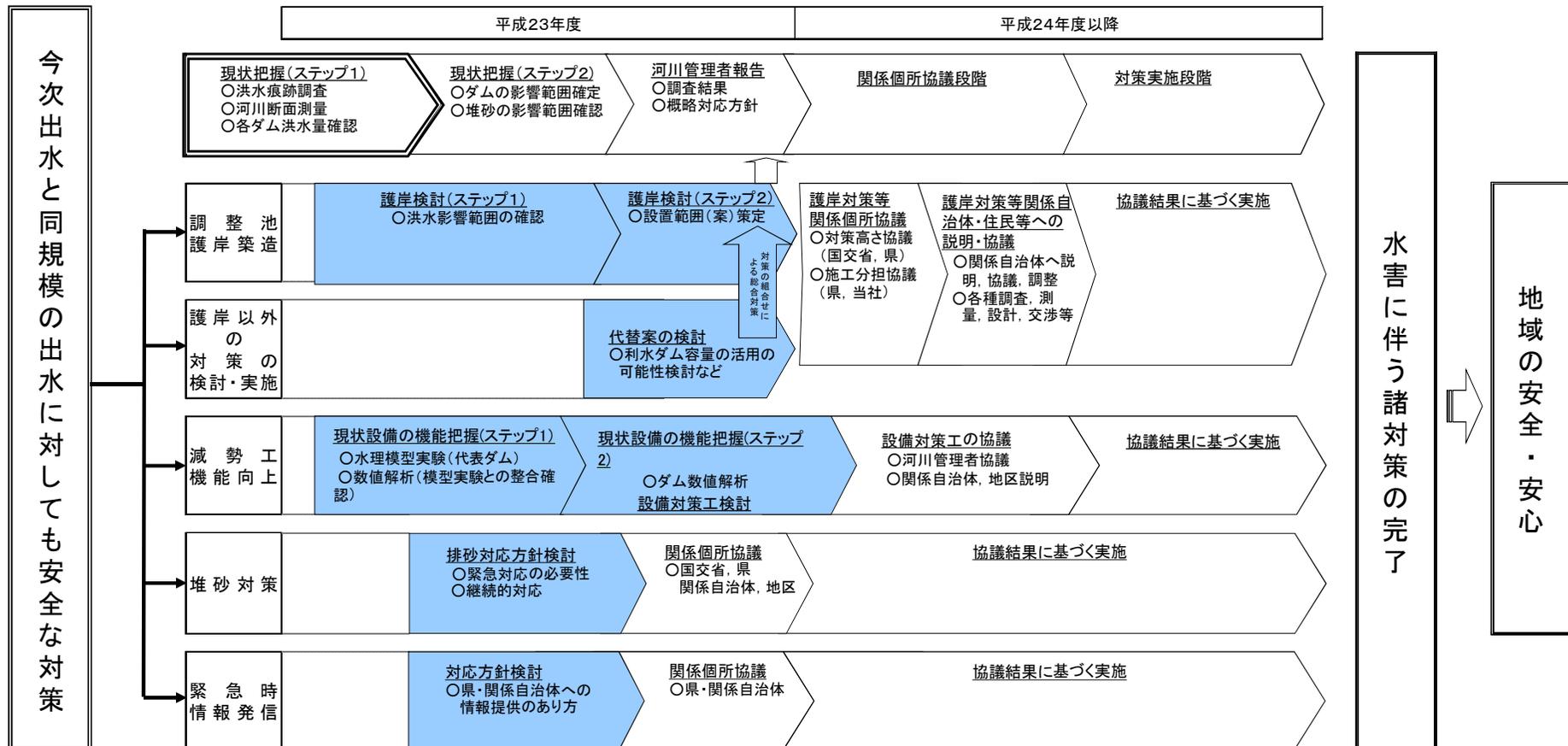
平成24年 3月 26日
東北電力株式会社

(第3回資料) 地域の安全安心確保に向けた対応イメージ

平成23年11月29日
平成23年7月新潟・福島豪雨での只見川等の
災害に関する情報連絡会(第3回)[資料-4]
東北電力株式会社

平成23年7月 新潟・福島豪雨 地域の安全安心確保に向けた中長期的な対応について(イメージ)

- ・今般の新潟・福島豪雨は、記録的な大雨により昭和44年の出水災害を踏まえた対策を超過する流域被害が発生しています。
- ・現在、現状把握(ステップ1)としての洪水痕跡調査、河川断面測量等を実施中であり、今後の諸検討の基礎データとなる各ダムにおける洪水量を確定させ、逐次河川管理者へ報告・確認しながら現状把握(ステップ2)へ進めていきます。(年内目途)
- ・現状把握(ステップ2)が終わった段階で、対策工を組合せた総合対策を立案し、河川管理者と調整の上、関係自治体の方々へ提案するとともに協議調整を図っていくこととしております。



1. ダム上流の影響範囲に関する対策

① 検討手順

ダム上流影響の
シミュレーション

ダム上流域の水位をシミュレーションし、洪水・堆砂の影響範囲を想定

【阿賀野川水系技術検討会】

計画流量・
管理範囲の設定

計画流量を設定し、その流量流下時のシミュレーション結果に基づき管理範囲を設定

【河川管理者と調整の上で設定】

浚渫範囲の抽出

各調整池の堆砂状況を基に浚渫が必要な範囲を決定

堆砂処理計画の立案

浚渫が必要な個所から優先順位を決定し、堆砂処理計画の立案

設備対策の立案

必要に応じて堆砂処理以外の対策（堤防、物件の嵩上げ、用地買収・地役権設定等）の立案

計画が立案されるまでの間、暫定的な対策（緊急、早期）として堆砂処理（掘削）を実施する

1. ダム上流の影響範囲に関する対策

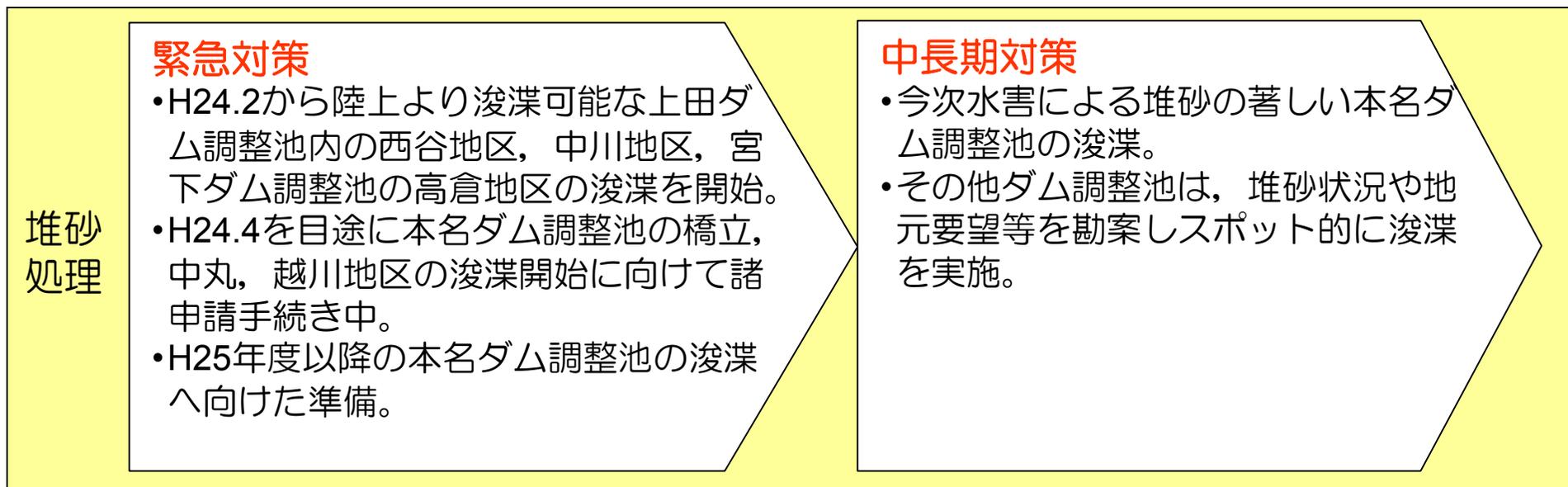
② 対策の実施

対策の実現・維持には中長期的な取組みが必要なことから、以下の通り段階を踏みながら対策を進めていく。

～H24年度

H25年度以降

• 関係機関との調整・協議



1. ダム上流の影響範囲に関する対策

③ 堆砂処理：緊急堆砂対策の実施場所（平成23年度実施）

(1) 上田ダム調整池，宮下ダム調整池



○ 堆砂処理（掘削）箇所

■ 掘削した土砂は浚渫箇所近隣の土捨場へ運搬。

1. ダム上流の影響範囲に関する対策

④ 堆砂処理：緊急堆砂対策の実施場所（平成24年度実施）

(2) 本名ダム調整池



■ 掘削した土砂は浚渫箇所近隣の土捨場へ運搬予定。

○ 堆砂処理（掘削）予定箇所

1. ダム上流の影響範囲に関する対策

⑤ 堆砂処理：緊急堆砂対策の実施場所（平成24年度実施）

(3) 柳津ダム調整池，片門ダム調整地

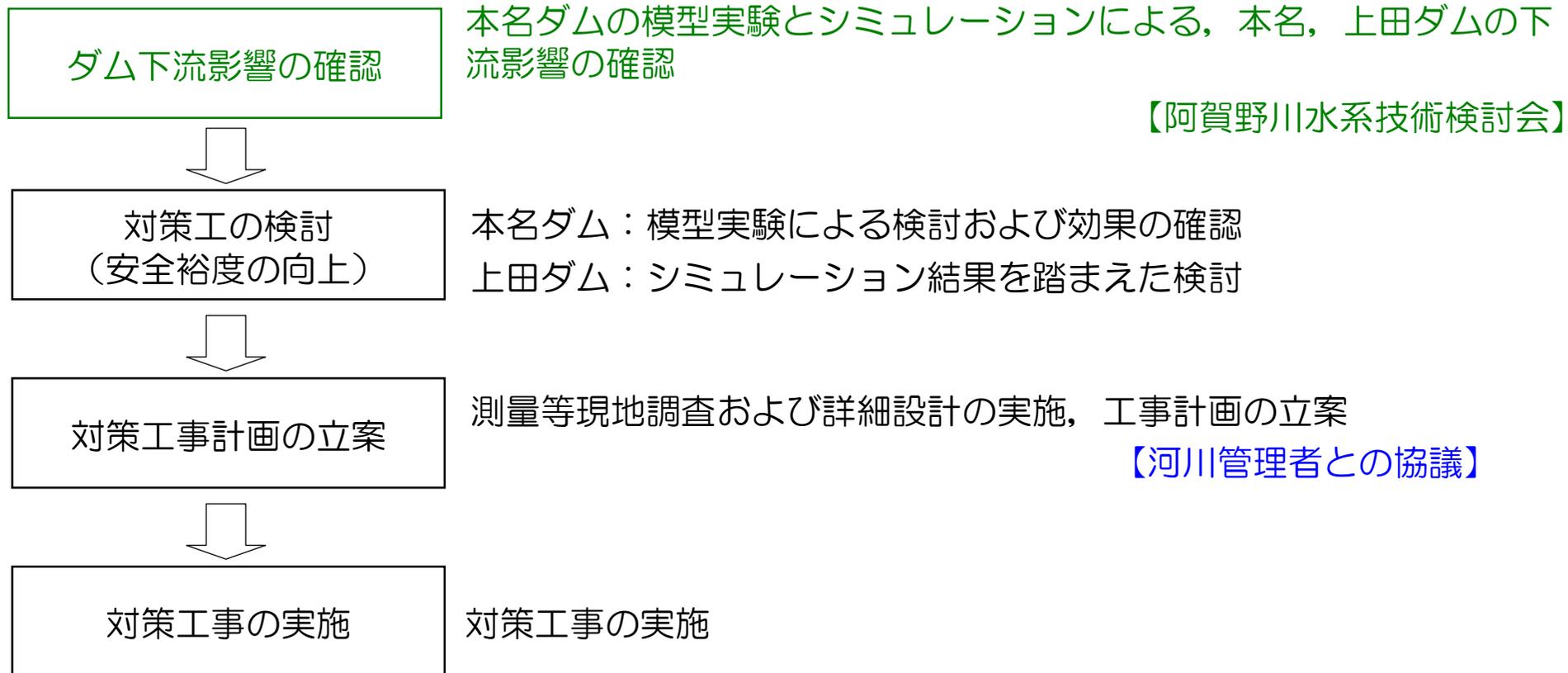


○ 堆砂処理（掘削）予定箇所

- 掘削した土砂は浚渫箇所近隣の土捨場へ運搬予定。

2. ダム下流の影響範囲に関する対策

① 検討手順



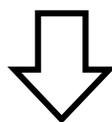
② 対策の実施



3. 情報伝達の改善

① 情報提供見直しへの対応

流域の自治体などからのダム状況に関する情報提供のあり方の見直し要望を受けて、流域市町村を対象にしたダム情報の内容や連絡時期などについてアンケート調査を実施した結果、以下の要望が寄せられた。



- 当該市町村に立地するダムだけでなく、上流のダム情報を把握したい。
- よりタイムリーな情報提供を受けたい。
- ニーズ（ダム水位等）にあった情報の提供を受けたい。

3. 情報伝達の改善

② 今後の運用について

- 警戒体制，洪水量到達などに関する連絡は各所からの要望を反映する。
- 平成24年4月より，次項の情報ツールの活用が可能となるまでの間，洪水量以上の毎正時ダム情報（雨量・水位など）の通知対象個所には F A Xにより行う。
- 情報提供の利便性を図るため，インターネット，電子メール，情報伝送装置等ツールの活用などによる情報提供について検討を進める。